

検査内容のご説明

HK-2 2012.7



検査項目	検査内容の説明	
全身	総蛋白	血清中の蛋白は大きくアルブミンとグロブリンに分けられ、その比をA/G比といいます。蛋白分画は蛋白を更に5つに分けることができ、いずれかの蛋白の増減によって、全身の健康状態や病気の有無を知る事ができます。
	アルブミン	
	A/G比	
	蛋白分画	
筋肉	CK (CPK)	心筋や筋肉の状態を知る事ができます。運動家や激しい運動の後では高くなります。
肝臓・胆管	GOT (AST)	心臓、肝臓等の細胞に多く含まれ、どの臓器の障害か疾病程度の判断ができます。
	GPT (ALT)	肝・腎臓の細胞に多く含まれ、肝臓に比較的特異的であり、肝障害の存在がわかります。
	LD (LDH)	あらゆる組織の細胞に含まれ、いずれかの組織に異常をきたしていないか、また、治療効果の判定に役立ちます。
	ALP	肝臓・胆道・骨の機能状態をみる事ができます。
	γ-GTP	肝臓・胆道の疾患をみる事ができます。アルコール性肝障害、薬剤性肝障害の指標となります。
	LAP	胆管の状態をみる事ができます。
	総ビリルビン	俗に言う体の皮膚が黄色となる、黄疸の有無や疾病の種類を知る事ができます。
	直接ビリルビン	肝疾患の有無の参考値として有用です。
膵臓	クンケルチモール	膵臓で作られる酵素で、膵臓の状態をみる事ができます。
	コリンエステラーゼ	膵臓、唾液腺の状態をみる事ができます。
腎臓	アミラーゼ	膵臓、唾液腺の状態をみる事ができます。
	尿素窒素	いずれも腎臓から排泄される老廃物です。体内に残ったこれら老廃物の量から腎臓の状態をみる事ができます。尿酸は痛風の指標ともなります。
	クレアチニン	
尿酸		
血糖	血糖	血液中のブドウ糖の濃度を秤り、糖尿病の有無を調べます。食後では高くなります。
	HbA1c (NGSP)	1~2ヶ月前の血液中の糖濃度を知る事ができます。
電解質	ナトリウム	水分やミネラルのバランスで栄養状態や腎臓の状態をみる事ができます。カルシウム (Ca) や無機リンでは骨の状態や副甲状腺の状態も知る事ができます。また、利尿剤を服用している時には、カリウム (K) やマグネシウムが低くなる事があります。
	クロール	
	カリウム	
	カルシウム	
	無機リン	
脂質	マグネシウム	LDL-コレステロールは血管壁に溜り動脈硬化や心筋梗塞発症の危険因子とされ「悪玉コレステロール」と呼ばれています。HDL-コレステロールは溜まったLDL-コレステロールを取り除く「善玉コレステロール」と呼ばれています。2つのバランスや全体の量(総コレステロール)、中性脂肪等から、上記疾患の有無や程度を知る事ができます。中性脂肪は食後の検査では高くなります。
	総コレステロール	
	HDL-コレステロール	
	LDL-コレステロール	
	中性脂肪	

甲状腺	FT3	多種多様な症状を呈する甲状腺疾患は高頻度に存在し、血液検査が必要です。
	FT4	
	TSH	
貧血	血清鉄	貧血の有無や種類を知る事ができます。
	総鉄結合能	
	不飽和鉄結合能	
炎症	CRP	炎症性疾患の有無や程度を知る上で必要です。
その他	RA(リウマチ因子)	リウマチの有無を知る事ができます。
	ASO	溶連菌による感染症の有無を知る事ができます。
	白血球数	細菌やウイルスによる感染症の診断に有用です。妊娠により高値になる事もあります。
	赤血球数	貧血の有無や種類を知る事ができます。
	血色素量	
	ヘマトクリット	
	血小板数	止血の働きをします。出血の際、血液が止まるかどうかを知る事ができます。